

司法試験、公認会計士試験の「2009年度合格者祝賀会」

司法試験、公認会計士試験の「2009年度合格者祝賀会」が12月14日、神田キャンパスで開催された。日高義博理事長・学長、ゼミの指導教員ら約70人が出席し、難関を突破した合格者たちを祝福した。写真。

難関突破の皆さんを祝福

司法試験、公認会計士試験の「2009年度合格者祝賀会」が12月14日、神田キャンパスで開催された。日高義博理事長・学長、ゼミの指導教員ら約70人が出席し、難関を突破した合格者たちを祝福した。写真。



- 09年度「旧司法試験」「公認会計士試験」合格者
- ※新司法試験合格者の氏名は10月号に掲載済みです
- （カッコ内は在学・卒業学部、所属ゼミ・勉強会、出身高校）
- ◆旧司法試験
- 鈴木昌太さん（平4法、服部彰男さん（商3、神梅本吉彦ゼミ、茨城県日立第一高）
 - 石坂亮太さん（経済3、篠原佑介さん（商4、計田中隆之ゼミ、東京都修会、栃木県白鷗大学）

旧司法試験合格者と公認会計士試験合格者のうち9人に、目指したきっかけ、試験勉強のコツ、後輩たちへのエールなどを聞いた。

計画的な勉強を意識

石坂 亮太さん(経済3) 画的な勉強を意識する②苦手分野から優先して解く③分からないことがあればメモを残し、必要な内容であれば解決する。

2つの基本に忠実に

服部 彰男さん(商3) 入学式後の講座ガイドを参考に、勉強方法を学んだ。試験は「答練」(本番形式で行われる模擬試験)を繰り返す、参考書を読み込んで理論を理解する、の2つを基本に、理解してきたら実際に書いて、身につけるようにしていました。リラックスする時間を作ることも必要で、「やるべきはやる、やらないときはやらない」の徹底が大切だと思えます。

力がなければ勉強を続けることも合格することもできませんでした。とも

自分流を貫く大切さ

富樫 和之さん(商3) 勉強に切り替えました。大切なのは毎日勉強を続けること。私は1日の勉強量を決め、終わったら休むというスタイルで、継続することを心がけてきました。ほかの人のことも気になると思いますが、自分流を貫くことも大事だと思います。

計修会の仲間と鍛錬

篠原 佑介さん(商4) 親が税理士だった影響もあり、税理士や会計士の仕事に興味がありました。試験を突破し、家族が喜んでくれました。勉強は苦手分野を作ら

疑問を持ち越さない

塚田 純平さん(商4) 公認会計士試験突破を目指す勉強会「計修会」に所属し、勉強は基本的なことを行っていました。講義や答練などで分からなかったことがあった時

に合格を喜び合える日が来て本当に良かったと思えます。7年連続で短答式試験に合格している間、論文式試験に合格することができない原因をつかめず、その後短答式試験にも合格できなくなりました。しかし、短答式試験に合格できなかった

基本問題はすばやく

渡辺 謙さん(商4) 難しい問題を解けるようになるのではなく、基本的な問題を適切に理解して、すばやく解けるように心がけてきました。一番大事なのは合格し

メリハリつけて勉強

六車 明紘さん(商4) 初めは資格取得を目指した簿記の勉強が中心で、本格的に会計士試験に取り組んだのは2年次から。そこで、長期的な勉強スケジュールを立て

上司、先輩の支えが力

沼田 真澄さん(平16経営) 大学時代に友人から会計士という職業を教わりましたが、3年次から勉強を始めました。当時、開講されたばかりの会計士講座

た3年間にもう一度時間をかけて勉強方法を見直すことができました。その結果、合格するために自分がなすべきことはそう多くはないことに気がつきました。自分のなすべきことが決まっていたから、受験勉強自体は1日5、6時間で済ま

せ、残りの時間は法律雑誌や論文を読み流していました。結果が出ない時こそ、冷静に自分を見つめることが大切だと知りました。「決してあきらめないこと」。この言葉を後輩の皆さんに贈ります。

海外学生と同時共同で学ぶ

「日本学」でドイツの大学とネット授業

文学部日本文学文化専攻では、板坂則子ゼミを中心に2003年から韓国やイタリアの大学との間で、インターネットによるリアルタイム共同授業を行っている。12月1日には生田キャンパスの同ゼミ生40人が参加し、ドイツのフランクフルト大学「日本学」研究者、ギドー・ウォルデリング特別教員および学生30人とネット共同授業を1時間半にわたって展開した。



ドイツと結んだ共同授業で発表する板坂ゼミ生ら。右は板坂教授

テーマは「若者と文学」。同テーマの授業は7月から1月までに4回行われ、半期をかけた共同研究のかたちで進められた。授業は「若者と文学」の3発表が行われた。フランクフルト大生からの「純愛を巡る小説はなぜ、日本の若者に人気があるのか」など、双方から活発な質問が出た。授業に日本側から参加したドイツ人留学生のメンディ・シューマンさん(大学院文学研究科歴史学専攻)は「日本文化を学ぶ日本とドイツの交流は素晴らしい試みだと思えます」と話していた。学生たちは、海外の研究者や日本文学・文化を専攻する学生たちとの共同授業で、専門分野を多角的に学べるという成果を得ている。